



主張

学校と家庭・地域の連携

～子供たちの未来のために～

城山 昭雄

新学習指導要領総則において、「学校がその目的を達成するため、(略)、家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めること」としている。

家庭は全ての教育の出発点と言われるように、本来子供たちにとって「家庭」は安らぎのある楽しい居場所、社会へ巣立っていくために欠かせない場所である。また、「地域」においては、子供たちが周りの大人や先輩、仲間とふれあう中で、社会に出てからの礼儀や常識、人のつながり、時には不合理なことも含め、生きていくための術を教えてくれる社会の縮図のようなものであった。かつて家庭や地域には、子供たちが失敗をしてもそれを許す風土や支える仕組みがあった。しかし、現代社会は大人も子供も失敗を許されない風潮がある。だから子供が個性を發揮しにくい雰囲気があるのではないか。

この原稿を書きながら思い出すのは、子供の頃、いたずらをしては母に怒られ、薄暗くなっても帰宅できず、近所のおばさんの家に逃げ込んだり、周りの大人たちが声をかけてくれたことである。私事ではあるが、今年六月に母が亡くなった。八九歳であり、自身ではもう少しあっさりと見送ることができると思っていたが…。私にとっての家族の柱は、



母であったこと、そして「家庭」の大切さを今さらながらに実感した。

近年、地域社会のつながりや支え合いの希薄化による教育力の低下や、家庭教育の困難な現状が指摘されている。教育は、言うまでもなく、学校だけで行われるものではなく、家庭や地域社会が、教育の場として十分な機能を発揮することなしに、子供の健やかな成長はあり得ない。だから「社会に開かれた教育課程」の実現が求められていると思う。

そして、学校と家庭、地域の連携のためには、地域の一員でもあるPTAの役割が大きい。しかし、多様な考え方や共稼ぎの増加などから、PTA役員のなり手がいない、PTAに加入しない親も増えているなどの状況も多いと聞く。あるPTAでは「パッと、楽しく、集まろう」というスローガンを掲げ、「子供の笑顔のために」という思いを共有し、楽しく活動を行っていた。そこで大切にしていくことは、無理をしないことであった。無理をしては絶対に長続きしない。新型コロナウイルスの影響で全ての活動がリセットされた今こそ、一つ一つの活動や組織を見直すチャンスであり、その改革をできるのは校長しかない。学校における働き方改革と同時に、PTAの働き方改革も進め、お互いが心と時間にも余裕をもって、持続可能な活動としていく必要がある。

新型コロナウイルス感染症の終息も不透明な今こそ、チーム学校を軸として、学校・家庭・地域の連携を最大限生かした教育を目指す必要がある。臨時休業で再認識された学校のありがたさと家庭の力、地域コミュニティの可能性を信じて、お互いの良さを認めながら、役割分担を果たしつつ、相互に連携していかなければならないときにきている。子供たちの未来のために。

(全日中副会長・長崎市立梅香崎中学校長)